

財政援助団体等監査結果報告

〔財団法人 神戸市演奏協会〕

神戸市監査委員	櫻井誠一
同	田中健造
同	北川道夫
同	大井としひろ

地方自治法第199条第7項の規定に基づき実施した平成23年度財政援助団体等監査について、同条第9項の規定によりその結果に関する報告を次のとおり決定した。

1 監査の対象

財団法人神戸市演奏協会（以下「協会」という。）における出納その他の事務（神戸市（以下「本市」という。）からの財政援助に係る出納その他の事務を含む。）で、主として平成22年度執行の事務

2 監査の期間

平成23年8月23日～平成24年3月16日

3 監査の方法

監査は、出納その他の事務が法令等に基づき適正に行われているかについて、関係書類の調査とともに、関係職員に対する質問等の方法により実施した。

4 団体の概要

(1) 設立の趣旨

神戸市室内合奏団及び神戸市混声合唱団を運営育成して演奏活動等を行うことにより、神戸市民の情操を豊かにするとともに音楽芸術の普及向上を図り、もって神戸市における文化の発展に寄与することを目的として、平成6年11月に設立された。

(2) 本市との関係

① 出捐

協会の基本財産は、1 億 1,691 万円であり、本市は非出捐である。しかし、本市が 100%出捐している財団法人神戸市民文化振興財団が協会に 1 億円（85.5%）出捐している。

② 財政援助

平成 22 年度は、補助金として、神戸市音楽文化振興事業に 1 億 7,978 万円交付している。

③ 職員数

平成 22 年度末の職員数は 2 人であり、2 人とも本市派遣職員である。

(3) 事業の概要

協会の所在地は、中央区橘通 3 丁目 4 番 3 号である。

協会の事業の概要は以下のとおりであり、主な業務量の推移は、第 1 表のとおりである。

① 演奏会の開催

神戸市室内合奏団、神戸市混声合唱団は、定期演奏会等の自主公演、各種団体等からの依頼公演を行っている。

② 芸術の普及及び振興に関する事業の実施

市内の小学校において、学校巡回公演オペレッタ「泣いた赤鬼」、こんにちは皆さん「歌うって楽しいね」・「ヴァイオリン大好き」を行うなど、芸術の普及・振興に努めている。

第 1 表 業 務 量 の 比 較

項 目		平成22年度	平成21年度	対前年度 増 減	対前年度 増 減 率
演 奏 会 の 開 催 神 戸 市 室 内 合 奏 団 自 主 公 演 依 頼 公 演 神 戸 市 混 声 合 唱 団 自 主 公 演 依 頼 公 演 室 内 合 奏 団 ・ 混 声 合 唱 団 合 同 公 演 自 主 公 演 依 頼 公 演	回 数	19回	20回	△1回	△ 5.0
	入 場 者 数	4,383人	4,393人	△10人	△ 0.2
	回 数	11回	14回	△3回	△ 21.4
	入 場 者 数	3,225人	5,367人	△2,142人	△ 39.9
	回 数	16回	17回	△1回	△ 5.9
	入 場 者 数	5,439人	6,468人	△1,029人	△ 15.9
	回 数	65回	42回	23回	54.8
	入 場 者 数	33,033人	49,138人	△16,105人	△ 32.8
芸 術 の 普 及 及 び 振 興 に 関 す る 事 業 こ ん に ち は コ ン サ ー ト 学 校 巡 回 公 演 オペレッタ「泣いた赤鬼」 こ ん に ち は 皆 さ ん ～ 歌 う っ て 楽 し い ね ～ こ ん に ち は 皆 さ ん ～ ヴ ァ イ オ リ ン 大 好 き ～ 歌 唱 指 導 等	回 数	2回	6回	△4回	△ 66.7
	入 場 者 数	969人	1,759人	△790人	△ 44.9
	回 数	1回	2回	△1回	△ 50.0
	入 場 者 数	400人	940人	△540人	△ 57.4
	回 数	6回	5回	1回	20.0
	入 場 者 数	621人	513人	108人	21.1
	回 数	6回	18回	△12回	△ 66.7
	入 場 者 数	3,383人	8,874人	△5,491人	△ 61.9
回 数	21回	31回	△10回	△ 32.3	
	入 場 者 数	2,154人	1,830人	324人	17.7
	回 数	12回	—	12回	皆増
	入 場 者 数	1,030人	—	1,030人	皆増
回 数	542回	538回	4回	0.7	
	入 場 者 数	11,810人	11,566人	244人	2.1

〔参 考〕 演 奏 団 体 別 の 公 演 数 （ 除 ： 歌 唱 指 導 等 ）

項 目		平成22年度	平成21年度	対前年度 増 減	対前年度 増 減 率
神 戸 市 室 内 合 奏 団	回 数	42回	34回	8回	23.5
	入 場 者 数	8,638人	9,760人	△1,122人	△ 11.5
神 戸 市 混 声 合 唱 団	回 数	114回	113回	1回	0.9
	入 場 者 数	44,630人	66,823人	△22,193人	△ 33.2
合 同	回 数	3回	8回	△5回	△ 62.5
	入 場 者 数	1,369人	2,699人	△1,330人	△ 49.3
合 計	回 数	159回	155回	4回	2.6
	入 場 者 数	54,637人	79,282人	△24,645人	△ 31.1

(4) 経営状況及び財政状態

経営状況は、第2表のとおりである。

なお、会計処理は、公益法人会計基準を適用しており、消費税処理は税込処理である。

第2表 比較正味財産増減計算表

(単位 金額：千円)

科 目	平 成 22 年 度		平 成 21 年 度		対前年度 増	対前年度 減	対前年度 増 減 率
	金 額	構 成 率	金 額	構 成 率			
I 一 般 正 味 財 産 増 減 の 部							
【 経 常 増 減 の 部 】							
(1) 経 常 収 益 (a)	229,326	100.0	213,987	100.0	15,339	7.2	
① 基 本 財 産 運 用 収 入	1,116	0.5	1,109	0.5	7	0.6	
② 受 取 補 助 金 等 (うち神戸市補助金収入)	183,380 (179,789)	80.0 (78.4)	179,842 (179,842)	84.0 (84.0)	3,538 (△53)	2.0 (△ 0.0)	
③ 演 奏 会 収 入	36,168	15.8	25,322	11.8	10,846	42.8	
④ 普 及 振 興 事 業 収 入	7,950	3.5	7,486	3.5	464	6.2	
⑤ 雑 収 益	712	0.3	227	0.1	485	213.7	
(2) 経 常 費 用 (b)	233,901	100.0	228,272	100.0	5,629	2.5	
① 演 奏 会 費	190,622	81.5	181,920	79.7	8,702	4.8	
② 普 及 振 興 事 業	9,320	4.0	9,679	4.2	△ 359	△ 3.7	
③ 管 理 費	33,960	14.5	36,673	16.1	△ 2,713	△ 7.4	
当期経常増減額 (A = a - b)	△ 4,575	—	△ 14,286	—	9,711	68.0	
【 経 常 外 増 減 の 部 】							
(1) 経 常 外 収 益 (c)	2,750	—	5,117	—	△ 2,367	△ 46.3	
① 繰越収支差額組戻収入	2,750	—	5,117	—	△ 2,367	△ 46.3	
(2) 経 常 外 費 用 (d)	—	—	—	—	—	—	
当期経常外増減額 (B = c - d)	2,750	—	5,117	—	△ 2,367	△ 46.3	
当期一般正味財産増減額 (C = A + B)	△ 1,825	—	△ 9,169	—	7,344	80.1	
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高 (D)	56,780	—	70,065	—	△ 13,285	△ 19.0	
当 期 収 支 組 戻 額 (E)	△ 2,750	—	△ 4,117	—	1,367	33.2	
一般正味財産期末残高 (F = C + D + E)	52,204	—	56,780	—	△ 4,576	△ 8.1	
II 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部							
当期指定正味財産増減額 (G)	0	—	△ 1,000	—	1,000	100.0	
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高 (H)	100,000	—	101,000	—	△ 1,000	△ 1.0	
指定正味財産期末残高 (I = G + H)	100,000	—	100,000	—	0	0.0	
III 正 味 財 産 期 末 残 高 (J = F + I)	152,204	—	156,780	—	△ 4,576	△ 2.9	

財政状態は、第3表のとおりである。

第 3 表 比 較 貸 借 対 照 表

(単位 金額：千円)

科 目	平成 22 年 度 末		平成 21 年 度 末		対 前 年 度 増 減	対前年度 増 減 率
	金 額	構 成 比 率	金 額	構 成 比 率		
資 産	173,564	100.0	177,246	100.0	△ 3,682	△ 2.1
Ⅰ 流 動 資 産	56,556	32.6	60,217	34.0	△ 3,661	△ 6.1
1 現 金 ・ 預 金	47,877	27.6	57,655	32.5	△ 9,778	△ 17.0
2 未 収 金	8,037	4.6	2,029	1.1	6,008	296.1
3 前 払 金	476	0.3	345	0.2	131	38.0
4 貯 蔵 品	166	0.1	188	0.1	△ 22	△ 11.7
Ⅱ 固 定 資 産	117,008	67.4	117,029	66.0	△ 21	△ 0.0
1 基 本 財 産	116,910	67.4	116,910	66.0	0	0.0
(1) 定 期 預 金 等	6,910	4.0	6,910	3.9	0	0.0
(2) 投 資 有 価 証 券 等	110,000	63.4	110,000	62.1	0	0.0
2 そ の 他 固 定 資 産	98	0.1	119	0.1	△ 21	△ 17.6
(1) 器 具 備 品	98	0.1	119	0.1	△ 21	△ 17.6
負 債 及 び 正 味 財 産	173,564	100.0	177,246	100.0	△ 3,682	△ 2.1
負 債	21,360	12.3	20,466	11.5	894	4.4
Ⅰ 流 動 負 債	21,360	12.3	20,466	11.5	894	4.4
1 未 払 金	21,260	12.2	20,341	11.5	919	4.5
2 前 受 金	100	0.1	125	0.1	△ 25	△ 20.0
正 味 財 産	152,204	87.7	156,780	88.5	△ 4,576	△ 2.9
Ⅰ 指 定 正 味 財 産	100,000	57.6	100,000	56.4	0	0.0
1 寄 付 金	100,000	57.6	100,000	56.4	0	0.0
(うち基本財産への充当額)	(100,000)	—	(100,000)	—	(0)	—
Ⅱ 一 般 正 味 財 産	52,204	30.1	56,780	32.0	△ 4,576	△ 8.1
(うち基本財産への充当額)	(16,910)	—	(16,910)	—	(0)	—

5 監査の結果

(1) 経営に関する事項について（第2表参照）

当年度の経常収益は2億2,932万円、経常費用は2億3,390万円で、当期経常増減額は457万円の損失となっている。

経常収益は前年度に比べ1,533万円（7.2%）増加しているが、これは演奏会収入が増加したこと等による。また、経常費用は前年度に比べ562万円（2.5%）増加しているが、これについても演奏会費が増加したこと等による。

経常収益の増加が経常費用の増加を上回っていることから、当期経常増減額は前年度に比べ971万円増加している。

事業面では、神戸市室内合奏団、神戸市混声合唱団による演奏会の実施など、設立の目的に沿って運営がなされているものと認められた。

また、補助事業についても、補助金の交付目的を達成しているものと認められた。

(2) 財務に関する事項について（第3表参照）

当年度末の資産は1億7,356万円で、現金・預金の減等により、前年度末に比べ368万円（2.1%）減少している。負債は2,136万円で、未払金の増等により、前年度末に比べ89万円（4.4%）増加している。

正味財産は1億5,220万円であり、当期経常増減額の減により、前年度末に比べ457万円（2.9%）減少している。

(3) 指摘事項

協会の出納その他の事務については、概ね適正に処理されていると認められたが、事務の一部について次のような改善を要する事例が見受けられたので、今後適正な事務処理に努められたい。

① 会計に関する事務

協会の会計規程によると、立替払いをした者の上司が立替金額、立替理由等を確認しなければならないことになっているが、立替払いをした本人が立替金額、立替理由等を証明している事例が見受けられた。

会計規程に基づいて、立替払いをした者の上司が確認すべきである。

（事例）

学校巡回公演で使用するヴァイオリンの緊急購入 37,000円

(4) まとめ

協会は、室内合奏団による年間約 40 回の公演、混声合唱団による年間約 120 回の公演を開催しており、平成 22 年度の鑑賞者数は約 55,000 人となっている。

団員の報酬については、基本額に演奏会と練習日の回数に応じて一定額を加算する制度を採用するなどの工夫を凝らしているが、演奏会経費の約 4 分の 3 を占めている。

また、市民に良質な音楽を気軽に楽しんでもらうため、入場料を低廉な価格としている。このため、神戸市からの補助金が収入の 8 割近くを占める状況が続いている。

協会では、室内合奏団及び混声合唱団のマネージャー業務等について、協会の直営実施ではなく外部委託とすることで、スリムな職員体制としているが、今後も、音楽芸術の普及向上を更に推進していくために、継続的な事務改善の実践、入場者数の増加に繋がる取り組みの強化に努められたい。

凡 例

- 1 文中で用いる金額は、原則として千円の位以下を省略し、万円単位で表示している。
- 2 各表中の金額は、原則として百円の位を四捨五入し、千円単位で表示している。したがって合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3 各表中の比率は、百分率で表示し、小数点以下第 2 位を四捨五入している。したがって合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 4 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0」及び「0.0」-----該当数値はあるが、単位未満のもの。
 - 対前年増減額及び率の場合は、零を含む。
 - 「－」-----該当数値なし、算出不能又は無意味のもの。
 - 「ほぼ皆増」-----増加率が 1,000%以上のもの。
- 5 文中及び各表中でいう消費税とは「消費税」および「地方消費税」をいう。